

伸びる「千葉工大」ブランド

平成28(2016)年が明けた。近年、ロボティクスや惑星探査の研究で千葉工大の元気がいっぱいの姿は国内はもちろぬ、海外にも届いている。入学志願者数は増加の一途をたどって理工系大学(Ⅱ部除く)のトップになり、4月には新たな工学部、創造工学部、先進工学部がスタート。津田沼、新習志野両キャンパスの教学環境整備もさらに進む。申年の今年、この勢いにさらに弾みをつける年になるだろう。瀬戸熊修理理事長と小宮一仁学長に新春の抱負を語っていただいた。

(聞き手は入試広報部)

NEWS CIT

2016
1.15

ニュースシーアイティ

千葉工業大学・入試広報部
〒275-0016 千葉県習志野市津田沼
2丁目17番1号
TEL 047(478)0222 FAX 047(478)3344

<http://www.it-chiba.ac.jp/>

毎月1回(8月を除く)15日発行

新春の抱負対談

瀬戸熊修理理事長



小宮一仁学長

ニュースガイド

- 2面 新春の抱負対談(続き)
- 3面 滝口さん入選/田中さん研究発表特別賞/鈴木研5人受賞/テコンド-木村君優勝
- 4面 工学部などの教職課程認定答申/長尾研scrum家具を販売/浦安市モデル校にタブレット貸与/市原さん杉崎さん教育功労者表彰/冬の理工学教室/吹奏楽部定期演奏会
- 5面 宇井さん清宮さん講演/産学連携交流会/校友「米田国章氏」
- 6面 ラグビー部70周年/神田外語大の施設、利用可能に/エコキャップ運動成果/クラブ活動状況

平成28年の干支は昭和31年に次ぐ丙申(とみ)で古来、大変革の年だそうですが、千葉工大にとって

工学部再編控えて

瀬戸熊修理理事長 ここ数年、大変革を続けてきましたからね(笑)。とりわけ今年には工学部再編で新たに3学部12学科が誕生し、大学全体では5学部17学科になる。私がこの変革を決断した背景には、再来年から18歳人口が再び減少に転じるといふ大学にとって正念場の「2018年問題」があるわけですね。

その問題を超えるためにはどうしたらよいのでしょうか。

そのためには世の中の動きを敏感に捉え、全学の意識改革を一層押し進め大学の今日までの組織の形態を下ラスティックに変えていくことが、急務と考えています。その一方で、口で言うのは簡単ですが、物事には変えられるものと変えられないものがあります。変えられないものは、「世界文化に技術で貢献

する」建学の精神、そしてわが国唯一の旧制私立工業大の素晴らしい伝統です。本学の建学の精神は今の時代にもまったく色あせておりません。

変えられるものは、全力を傾けて変えていくことです。大学の組織体系は時代の流れに応じて自ら速やかに変革していかねば生き残れないのも事実です。この2つの基本的なことをしっかり見定めながら、本学の経営に全力を尽くしていく所存です。

好回転を今年も

小宮一仁学長 本学の現状を一言で言い表せば「いい状態」にありま

す。理事長が推進されているブランド戦略の成功で「千葉工大」の知名度が上がっており、それに後押しされて入学志願者が好調に増加しています。私が学長就任以来、課題としてきた退学者数も教職協働の取り組みによってかなり改善されてきました。何より学内が明るくなってきた実感がありません。工学部再編もそうした環境変化の上にあるわけですから、この好調を今年も維持し、さらに伸ばしたい。足踏みは退歩の始まりです。教職面でもやらなければならぬことは山積しています。

情報科学部と社会システム科学部の改編の検討も緒に就くと思いますが、社会システム科学部については、4月に新しい研究センターも開設されるようなので、その力も借りながら社会人と留学生を取り込んだ学部から大学院まで一貫する新しいシステムを構築できれば、と考えています。

創出へのこだわり

理事長 理學は原理、真理を追求する学問です。それを応用して夢のような未来を実現するのが工学だと思えます。その工学の分野にも文系の発想と感性が必要と考

え、文理融合を図るため意図して開設したのが社会システム科学部です。4月に開設を予定している国際金融研究センターも、金融工学に人工知能を応用するという画期的な分野の研究を進めています。

くためです。幸い新しいセンターは、社会システム科学部と共通の土台がありますので、両者が協力して優れた成果を挙げることが期待したいです。研究者は失敗や挫折を繰り返しながら、壁を一つ一つ乗り越えて、困難な領域に踏み込んでいくことが最も大切なことです。真の技術革新もそういうところから生まれてくると思います。

ロボット技術と惑星探査の2つの研究センターの活躍が目覚ましいですね。

学長 本学の知名度アップに大きく貢献し、やる気のある学生が全国から集まるようになって、教える側にとってもやりがいのある環境に向かいつつあります。同時に研究センターの成功例を見て、多くの教員の間にも教育と研究で新しいものを創出しなければ生き残れないという意識が芽生え始めています。私がかねて学生の愛校心を育みたり、「この大学に入るとよかった」「この大学を卒業してよかった」と思われる大学にしたいと言いつつありますが、研究センターの活躍は現役学生だけでなく、同窓生の励みにもなっていると思います。

環境・施設が牽引

理事長 ここ数年、学

生諸君が前向きになってきていることは確かですね。学生だけでなく、ご父母や卒業生の間にも「子供をこの大学に入れてよかった」「千葉工大の卒業生であることを誇りに思う」という声が私の耳にもよく聞こえてきます。私学はどんなに良い教育や研究をしていても、学生が入学して来なければ経営は成り立ちません。私は理事長に就任以来、「補助金や寄付金頼みでなく、自分の軸足でしっかり立つ経営」を念頭に事に当たってきました。財務基盤をしっかりと固めて、プラスになった部分は、できるだけ教育環境の整備充実にも努めてきました。私より半年遅れて小宮学長が就任

2015年度
千葉工業大学工学部デザイン科学科
卒業研究・制作展

秋葉原では活動報告展 デザイン科学科の活動報告展は2月13日(土)・14日(日)、東京・秋葉原のUDX GALLERYで開催予定

2016年2月5日(金)6日(土)
5日 10:00-17:00 6日 10:00-15:00
千葉工業大学 津田沼キャンパス7号館

し、その柔軟な発想と行動力が相俟って、うまく回転を始めたのです。

学長 法人が進めてく

れている教学環境の整備には本当に感謝しています。近年、諸外国を見ても、国立大学よりも環境・施設の整った私立大学に学生が集まる傾向が見られます。将来日本もそうなるべきです。800近い大学がひしめく日本ですが、これだけ恵まれた立地にあり、これだけ充実した環境整備のできる本学のような大学は限られています。これから先、本学の意味の大学間競争が始まったときに、これは必ず大きな力になると思います。

(2面へ続く)

(1面から続く)
 ―― 本学が交流協定を結んでいる海外の大学は現在、11カ国・地域の23大学ですが、国際化についての考え方をお聞かせください。

国際化の中身充実

理事長 私は単に英語を話せる学生を育てることが即ち国際化であるかの如き、風潮に一寸疑問を感じています。本学の《世界文化に技術で貢献する》という建学の精神は、平たく言えば、グローバル社会で活躍できる教養あふれる優れた科学技術者を積極的に育成するということですから、できるだけ大きな視野に立った物の見方ができる人材を育てなければと考えています。グローバル社会を理解するためにはまず、生まれ育った自国の文化・歴史を知り、その上で、異文化を吸収し、理解を深めたその時こそ、初めて対等の付き合いができると思うのです。是非学生達には入学のときから日本の文化・歴史についての理解を深めていただきたい。学長も同じと考えて初年度教育の改革に積極的に取り組んでおられるので、期待しています。

学長 グローバル化とは本来「垣根を取り払う」という意味です。私は学長に就任して、まず学内のグローバル化を呼



瀬戸熊理事長

びかけてきました。教員と職員との間の垣根、津田沼と新習志野の間にある垣根を取り払おう。従来の垣根を取り払って前に進もうと。そういう意味のグローバル化に向けた意識改革は、まだ十分とは言えませんが、かなり浸透してきたと思います。一方、国際化については、平成26年7月に公表した「千葉工業大学のグローバル化ビジョン(国際化の方針)」に沿う形で進めており、そこで掲げている留学経験を持つ学生の割合3%以上や、交流協定締結校25校以上などの数値目標も達成できつつあります。長年望んでいたメキシコの大学との交流協定締結が近々実現する運びです。加えてフィリピンとタイ等のトップの大学との協定締結の準備も進んでいます。これからの課題は国際化の中身の充実です。本学の学生をどんどん海外に出す一方、海外の学生を積極的に呼び込みたい。法

人の努力で海外からの留学生のための奨学金などもつくってくださっていますので、本当の意味で

ことを忘れてはなりません。1942年の創立以来、本学は慢性的な財政難と幾多の困難を乗り越えて歩んできました。なかでも先代理事長の豊田耕作先生の先見の明と果敢な経営決断があったからこそ、現在の恵まれた津田沼キャンパスと新習志野キャンパスがあります。新習志野の再開発も豊田先生のご遺志を継いでできたことなのです。

学長 新習志野キャンパスには新たな食堂棟と体育館とともに日本人学生と外国人留学生を収容する国際交流会館もできますが、これらは外国の伝統ある私立大学のキャンパスに似ていると私は思います。もともと本学は全寮制の大学だった歴史がありますので、国際交流会館の運用開始を機に、桑蓬寮と橋寮を加えた3つの学生寮を使って、外国の私立大学に見られるような教育支援を進めていくことも考えて

います。学生と教職員が一緒にフォーマルディナーをいただくなど、いろいろなことができるのではないのでしょうか。寮で学生を指導する教員やポスドクターの構想もあります。理事長からは千種寮を有効活用できないかという話もありますので、これらを合わせて、より学生に密着した教育支援の態勢を構築していきたい。そして、それをさらなる改革につなげて

の我々の教育の重要な課題の一つであります。教職員も「自分はこの大学で共に生き残っていくんだ」という前向きな姿勢を持つことにより、モチベーションが更に上がるのではないのでしょうか。

学長 成果を挙げた教員をどんどん表彰していきます。FD委員会と教務課をお願いして、外部の教育方法の専門家を招いてFDフォーラムやFD講演会などを年に数回開催しています。専門家による教育法のセミナーも開催しています。将来的には教養に不安のある教員には、このセミナーの受講を必須にしようかと、理事長と相談しながらいろいろと頭を巡らせているところです。

理事長 学長のおっしゃったことは至極当然です。まさにその教員と職員は大学を支える車の両輪であり、運命共同体なのですから、何事も私と学長の2人で多様な意見を取り入れながら、即断・即決・即実行を心掛け加速してきたことが最近、学内に浸透して行き良いムードになってきたと感じています。

待！というところです。――2017年は本学創立75周年。理事長が常々言われている100周年に向けての盤石な礎づくりについてお聞かせください。

「世界的視野」を育てたい

の国際化、文化交流を進めて、海外でも物怖じしない日本人を育成していきたいと思えます。

――この春には新習志野キャンパスの再開発も完成します。

理事長 教学の改革と施設などの環境整備は表裏一体となって行うべきものですが、ここで私が言っておきたいのは、先人達の「めげず、諦めず」の不屈の精神とためまざる努力のお陰で今日の千葉工大があるという

ポイントには教職協働

理事長 小宮学長が就任以来、さまざまな施策により退学者数は確実に減少してきました。教職員には一人ひとりが自ら

個々の問題と捉え、教養を育てると言う教育の原点に立ち返り、さらなる使命感を持って改革改善のための努力を続けていた

いこうと考えています。――教育力・研究力のさらなる向上について

は。

系が好きだから志願してくるわけです。まさに「好きこそものの上手なれ」です。それを嫌いにさせてしまうのは我々の責任です。学生達には「めげず、諦めず」の精神を植え付けてほしいですね。何かあっても負けないぞという「強い気持ち」を植え付けることも、これから

を預かっているという点では、教員も職員も同じです。FD(Faculty Development)やSD(Staff Development)も教職協働でやってこそ成果が挙がるのです。教員も職員が一体となって学生を指導していく態勢をさらに推進していくことを思っています。研究面でも職員の皆さんが参加できるものもあるだろうし、地域貢献も教職協働でやっていかなければ

――2度のロケット爆発に見舞われた長期流星観測プロジェクト「メテオ」の3度目のカメラ打ち上げが3月10日に予定されていますが、今年はどうなっていますか。先

に申しした2018年から減少し、2032年ごろと予測されている18歳人口の100万人割れ、これを何とかも乗り越えなければならぬ。そのためには今から準備を重ねておく必要がある。ここ数年の改革もその一環ですが、長い目でみれば緒に付いたばかり。本番はこれからです。

学長 千葉工大は今、新しい大学の姿をリードしていると思っています。しかし、これだけと安心してしまえば、あとという間に追い抜かれてしまいます。そうならないためには、自身が常に新しく変わり続ける必要がある。理事長がおっしゃっているように、全学を挙げて改革を日々緊張しながら進めていかなければならないと思っています。

100周年へ盤石な礎を

理事長 いろいろありますが一つだけ。それは、日本がまだ縄文時代だった紀元前33000年頃に、今のトルコからシリアの辺りにヒッタイトという王国があり、人類の歴史上初めて鉄を使った民族と言われており、有名なエジプトのラムセス2世と戦い破ったことも分かっています。このヒッタイトの鉄器文化について、今、惑星探査研究センターの松井孝典所長がトルコの考古学研究機関と協力して解明を進めています。考古学に科学的メスを入れる画期的な発想は素晴らしいことです。人類と鉄に関するこれまでの歴史の通説を覆す発見につながるかも知れません。どう、ご期待

ありがとうございます。――ありがとうございます。



小宮学長

の国際化、文化交流を進めて、海外でも物怖じしない日本人を育成していきたいと思えます。



学生寮に隣接する国際交流会館は昨年11月10日に上棟式を終えた。新体育館とともに3月の完成を待つばかりだ

の国際化、文化交流を進めて、海外でも物怖じしない日本人を育成していきたいと思えます。

ありがとうございます。――ありがとうございます。

新春の抱負

温麺パッケージ入選

▼滝口さん「おいしい東北…デザイン展」で

経済産業省東北経済産業局の主催で東北6県などが後援する「おいしい東北パッケージデザイン展2015」(昨年11月27日〜12月1日、仙台市)の東京エレクトロンホール宮城(開催)で、滝口亜美さん(デザイン科学科3年)が宮城県白石市の名産・白石温麺「食べくらべセット」をデザインした作品が入選作に選ばれた。

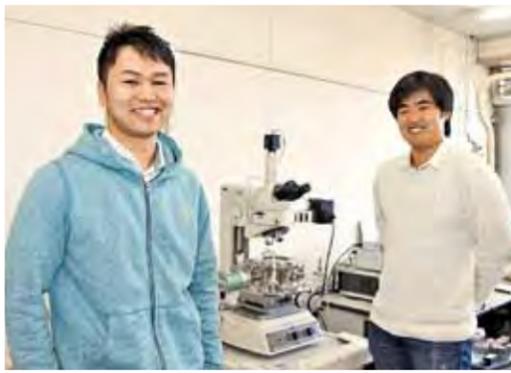
同展は毎年、東北の個性豊かな商品をテーマにしたデザインを募集している。滝口さんは白石温麺に挑戦。ギフトとしてアンテナショップや百貨店に



置きたいというヒアリングシートの声を参考に、デザインや中身を統一。各社温麺は同じ袋ながら、中身は見えて食べ比べしやすいようにした。箱は丈夫な段ボール製。自然な風合いを大切にしたい。

田中さん研究発表特別賞

▼高機能X線源の開発に関する研究

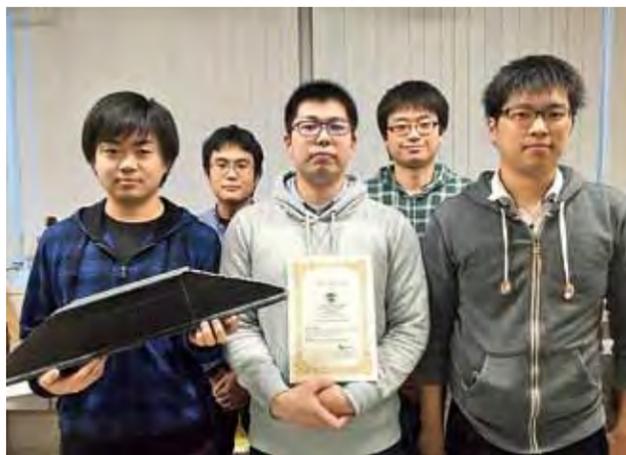


大学院の工学専攻、田中一平さん(博士後期課程3年)と坂本幸弘研究員が、電子情報通信学会のバイオテクノロジー&エレクトロニクス研究討論会(12月11日、千葉県大東薬工大)で「窒化炭素の電界電子放出X線源の探索」を発表し、研究発表特別賞を受賞した。研究は、医療のCT検査など、X線を用いた生体イメージングデバイス小型化・高精度化に必要なもの。近年、電界電子放出素子を用いた高機能X線源の開発が行われている。電界電子放出とは、固体表面に強電界を加えるとトンネル効果によって電子が真空中に放出される現象。従来の方法に比べ省電力、高速応答が可能になるため、優れた電界電子放出材料を生む研究が進められている。

田中さんは発表で分かりやすいポスターを心掛けたという、「賞を頂けて光栄です。共同研究者・鎗田君(機械サイエンス学科4年)との日々の実験の賜物で、坂本教授の助言のおかげで思っています」と語った。

鈴木研5人ユニークデザイン賞

▼カーボン複合材料でブリッジ製作



鈴木研の5人。(前列左から)高石君、塚田君、鈴木君、(後列左から)山田君、真坂君

機械サイエンス学科・鈴木浩治研究室の学生5人が「SAMPE Japan学生ブリッジコンテスト」(12月8日、石川県白山市の金沢工業大革新複合材料研究開発センター)で「位相最適化によるブリッジのデザイン」を出品し、ユニークデザイン賞を受賞した。

5人は4年生の塚田護公君、鈴木恭平君、高石竜矢君、3年生(受賞時は研究室未配属)の真坂

段十70歳で3位と健闘した。木村君は小学2年だった2000年、シドニー五輪のテコンドー日本代表・岡本頼子さんの試合を見たことがきっかけでテコンドーを始めた。各大会に参加し、本学

入学後は2013年イギリスで開催されたITF(国際テコンドー連盟)世界テコンドー選手権の男子団体型で優勝、2014年、ITF系全日本テコンドー選手権一般男子型・1段の部で準優勝。昨年には出身地・藤沢市の体育協会から藤沢スポーツ賞(奨励賞)を授与された。

テコンドー木村君優勝

▼東京都オープン・型の部で



第1回東京都オープンテコンドー選手権大会(昨年11月1日、東京都町田市総合体育館)で開催された2000年、シドニー五輪のテコンドー日本代表・岡本頼子さんの試合を見たことがきっかけでテコンドーを始めた。各大会に参加し、本学

入学後は2013年イギリスで開催されたITF(国際テコンドー連盟)世界テコンドー選手権の男子団体型で優勝、2014年、ITF系全日本テコンドー選手権一般男子型・1段の部で準優勝。昨年には出身地・藤沢市の体育協会から藤沢スポーツ賞(奨励賞)を授与された。

木村君はテコンドーを通じて、感謝を忘れないことが大事と感じていると話し、「今回、優勝できたのも仲間、家族のおかげ。悔いのない選手人生を歩みます」と、意欲満々だ。



「環境報告書」2014年度版発行
地球環境保全に関する千葉工業大学の真摯な取り組みを報告した環境報告書2014年度版II写真IIが昨年11月、発行された。教職員的安全委員会・環境報告書ワーキンググループ(https://www.it-chiba.ac.jp/kankyou2014.pdf)からダウンロードできる。

1人が作成した。学長緒言、本学の概要とともに、6つの環境基本方針に沿って、取り組み状況を分かりやすく報告している。報告書は大学ウェブサイト(https://www.it-chiba.ac.jp/kankyou2014.pdf)からダウンロードできる。

中教審部会 教職課程認定を答申

再編工学部・創造工学部の6学科で

平成28年4月に開設する工学部と創造工学部、認定を答申した。部別都市環境工学部、申請していた教職課程について、中央教育審議会初等中等教育分科会

教員養成部会は11月24日、認定を答申した。部別都市環境工学部、申請していた教職課程について、中央教育審議会初等中等教育分科会

気電子工学部▽創造工学部II都市環境工学部Iの5学科で高等学校教諭一種免許状(工業)が、それぞれ認定された。

創造の場に「Scrum」家具

長尾研が開発、一般販売

デザイン科学科・長尾徹研究室の学生たちは、ゼミや図書館などのオフィススペースで自習やグループワークをする際に有用な家具「Scrum」(スクラム)シリーズを考案した。共同研究者である(株)イトキが試作と最終デザインを行い、昨年11月から一般販売が始まった。

教育界、ことに大学では、学生たちが自主的に学ぶ力を養う「アクティブラーニング」や、共有スペースを生かして議論し創造し合う場「ラーニングコモンズ」を育てる試みが進められている。

長尾研の串田隼人さん(修士課程2年)ら学生たちは、ラーニングコモンズに適した空間を創り出そうと机や椅子の開発を開始。学内の学習空間や学生同士のコミュニケーションを観察し、ノートPCやタブレットの使いやすさなどを考慮してデザインプロトタイプを導き出し、検証を進めた。出来上がったScrumシリーズは、共有・発散・収束を繰り返すグループワークに一体感を演出、また、レクチャー・演習・プレゼンなどの講義スタイルにも柔軟にスピーディーに対応できる教育施設用家具となった。

長尾教授は「今後は、実際のグループワークでScrumを使って、最適な情報共有方法とツールを追加開発し、さまざまな空間と学習形態に対応できる総合的教育ツールシステムの提案を目指します」と話している。

授業用タブレット端末 浦安市モデル校に貸与

在學生にタブレット端末を貸与している本学は、卒業生が返却した端末の再利用について、浦安市ICT活用推進モデル校(高洲中学校、入船中学校、入船小学校)に活用してもらうことを市に提案。昨年中に高洲、入船の2中学校にタブレットを貸与した。

本学と浦安市は教育・人材育成などで一昨年5月に包括的連携協定を締結しており今回の提案になった。本学教職員がモ



本学学生が利用したタブレットが小・中学校で活用される

デル校教員に端末の基礎講座を開き、すでに活用学習を開始。本学と小中学校教職員の間で授業コンテンツや独自アプリケーションの開発も検討している。

タブレット端末の利用先が広がることで、子供たちの自主性や創造性を育む学習に役立つと期待されている。



杉崎洋子さん



市原芳江さん

市原さん 杉崎さん 教育功労者表彰

本学の市原芳江・学生センター新習志野教務課課長補佐と杉崎洋子・施設部年度課係長が12月5日、千葉県私立教育振興財団から教育功労者として表彰された。

市原課長補佐は昭和58年4月に勤務以来、人事課、庶務課、芝園事務課、新習志野教務課などを歴任。特に人事課では

障害者職業生活相談員として障害者雇用の促進に尽力した。

杉崎係長も昭和58年4月に勤務以来、教務課、学務課、芝園事務課、図書館事務課、用度課などを歴任。現在所属の用度課でコストダウンを図ろうと多くの改革を推進。共に本学発展のため多大な貢献をした。

毎冬恒例の吹奏楽部定期演奏会が12月26日、本学近くの習志野文化ホールで行われた。今年で26回目II写真。

吹奏楽部は部長・太田秀平君II建築都市環境学科3年ら46人。学位記授与式、入学式など大舞台のほか、地域で課外活動し1年を締めくくる定期演奏会へ全員で練習に励んできた。3年生には引退前の集大成イベント。コンサートマーチ「アルセナール」や喜劇「メリー・ウィドウ(陽気な未亡人)」セレクションほか7曲を披露し、

部長の太田君は「二番の目標であるこのステージで、今年度ナンバーワンの演奏をすることができました。お客様、吹奏楽部を応援してください。方々、部員に感謝しています」。顧問の大川茂樹教授(未来ロボティクス学科)は「今回初めて私も仲間に入れてもらい、部員たちとステージに立ちました。(人間の感性を最もよく表現できる芸術)を皆様にお楽しみいただけたら幸いです」と語っていた。



スクラム家具の一パターン



特別企画「宇宙に触れる展示会」も実現した。市民からは「なかなか見られない大学の取り組みを知ることができてよかった」という声が上がった。

文化会常任委員の理工学教室担当・庄子俊さん(経営情報科学科3年)は「企画段階からガッチリと絡むのは今回が初めてで、組織としての

1年を締めくくり 吹奏楽部演奏会



冬の理工学教室開く

体験教室と「宇宙に触れる展示会」

本学卒業生や学生有志が取り組んでいる習志野市理工学教室事業(同教室実行委員会主催、委員長・布川淳さんII金融・経営リスク科学科卒OB)の「冬の体験教室」が12月12、13日の2日間、習志野市市民プラザ大久保で開かれた。

今回は文化会常任委員が積極参加。▽自分だけのクリスマスリース作り(電気研究部II写真)▽プラネタリウムの展示と天文教室(天文研究部)を開催し、多数の親子が、身近な理科を楽しんだ。また、惑星探査研究センターの協力で

行動を学べました。そのかきもあって、円滑に企画を進めることができたのではと思っています」と語った。

理工学教室は、平成25年から市民に生涯学習の機会を提供し科学技術に触れてもらうと始めた。市の市民参加型補助金事業に連続採択されている。

宇井さん 清宮さんが講演

女性研究者ネットワークフォーラム

社会のさまざまな分野の活躍するリーダーを目標として、昨年5月にスタートした「千葉工業大学・女性研究者ネットワークフォーラム」の講演会が12月10日、津田沼キャンパス6号館で開かれた。



会場には大勢の男子学生も。講演しているのは宇井さん

講演したのは2012年未末口ボテイクス学科卒業で、(株)aba代表取締役の宇井吉美さんと、2002年工業化学科(現生命環境科学科)卒業で、理化学研究所でNMR(核磁気共鳴装置)のテクニカルスタッフを務める清宮恭子さん。

宇井さんは本学在学中に医療・介護支援ロボットのプロジェクトを立ち上げ、その後、人工知能でデザインする要介護者のための排泄検知シートを開発するabaを起業した。世界中から斬新な技術開発やアイデアを募り、優れた作品を表彰する。

「ダイソンアワード」で世界のベスト20に選ばれているなど、数々の受賞歴がある。

清宮さんが勤務する理研のライフサイエンス技術基盤研究センターは、最先端の生命科学の研究から新薬の開発や、病気の治療法につながる技術の確立などを目標としている研究機関。NMRはこの研究に不可欠な装置で、清宮さんはNMRを常に最高の状態に維持するための管理・調整に当たっている。

会場には女子を上回る数の男子も詰めかけて総勢200人。宇井さんと清宮さんの学生時代から現在の仕事の内容、苦労話などに熱心に耳を傾けていた。

女性研究者ネットワークフォーラムは大学の助成を受けて昨年5月、9

人の教員が参加して発足。

11月のオープンキャンパスでは惑星探査研究センターの荒井朋子上席研究員の講演会を入試広報部との共催で開くなど、活動を続けている。

小浦教授は「学内の女性研究者全員の参加を目指すとともに、文部科学省の女性研究者研究活動支援事業『ダイバーシティ研究活動実現イニシアティブ』など外部資金も導入して、活動の範囲を広げていきたい」と話している。

現在の構成員は以下の通り。
小浦節子教授▽黒崎直子教授▽橋本香保子准教授(以上生環)▽半沢洋子教授▽竹内美奈子教授▽南澤慶寛准教授▽福嶋尚子助教(以上教育センター)▽橋本都子教授(デザ)▽石原沙織准教授(建都)

産学連携推進へ講演

交流会で本学3教員

千葉県中小企業団体中央会と千葉県異業種交流融合化協議会が共催の平

成27年度の産学連携交流会が昨年11月30日、津田沼キャンパスで開かれた。中央会や協議会の会員として本学産官学融合課の職員など約30人が参加した。



長尾徹教授の講演を聴く参加者

学連携センター運営委員長の本坂幸弘機材サイエンス学科教授が、瀬戸熊修理理事長が会長を務める本学の産官学連携協議会と小宮一仁学長が所長を務める産官学連携センターの機能と事業を

紹介。さらに来年度からの工学部再編について説明し、学生の就職やインターンシップ、キャリア教育などについて企業側の協力を求めた。

この後、坂本教授が「CVDマイクロロダイアモンドアレイの作製」など自分の研究成果について、プロジェクトマネージャメント学科の田隈広紀助教が「特許技術を用いたビジネス提案プロジェクトの実践」、デザイン学科の長尾徹教授が「企業・地域との連携による製品開発・デザインの実践」と題して講演した。

活躍する 校友

ケミカルグラウト株式会社常務
米田 国章氏 (61歳)
(昭和51年、土木工学科卒)

世界注視の中、東京電力福島第1原発で廃炉に向け一進一退の作業が続いている。難題は原子炉建屋へ流れ込む大量の地下水。放射性物質の汚染水タンクは増えるばかり。凍土壁で水を遮断しようとする。凍土壁で水を遮断しようとする。凍土壁で水を遮断しようとする。

福島第1原発で凍土壁工事を指揮 誠実に、淡々と



世界で尊敬される技術に携われるのは「幸せ」と米田さん

かホッとした表情がのぞいた。道産子である。競走馬産地で知られる浦河で生まれた。大工だった父を見て育ったせい、アウトドア系の仕事をと、土木工学を選んだ。東京の会社勤務の長兄のアパートに半年ほど居候のあと市川市のアパートへ引っ越した。クラブ活動などほとんどしなかった。そのぶん、配達や倉庫の荷運びなどバイトに割いた。そのお金はオーディオ機器へ。70年代に流行ったアメリカンポップスなどにはま

流。夏休みを終え、持参した土産を肴に、各地の民謡なども飛び出してにぎやかに過ごしたらしい。

「えっ、わたし? 歌は苦手ですが、北海道出身の仲間と一緒に歌いましたね。むしろソウル節です」

卒業と同時にケミカルグラウトへ。基礎地盤処理の専門会社だ。スーパーゼネコン「鹿島」(本社・東京)のグループ会社である。

地下鉄、モノレール、トンネル、ダム、港湾など大規模構造物は、地下など見えない

「あまり張り過ぎず、淡々とこなしたい。このころを支える技術あってこそ。同社が開発した、高い水圧で地盤にかけた空間に固化材を充てんして地盤を強化する「ジェットグラウト工法」は世界的に定評がある。軟弱な地盤改良、地中を流れる水を止めるなどの都市土木、ダムなど山岳系と大別される分野のうち、都市土木畑の米田さんは北海道から九州まで各地の現場を歩いた。日系企業の受注した地下鉄工事に関連して4年間、台湾にいた時に役員に。その3年後の

役員を経て東日本大震災のあった2011年、常務に。環境地盤改良本部長兼福島出張所長の責も担う。福島現場では、壊れた1〜4号機を深さ約30m、厚さ約2mの凍土壁でぐるりと囲む工事をこの2年近く陣頭指揮してきた。土を凍らせ、地下水流入を止めるのだ。概ね凍結管の設置は終えた。

「原子力規制委員会の許認可が出次第、運用を始める。昨秋までは月のうち半分は福島でしたが、これからは東京で仕事をやる時間が増えるでしょう」。今後の運転・保守は気になるもの、いづぶん

土質の研究室に属し、物性の実験に興味を引かれたという。夕暮れともなれば、教官はやかん酒をやるまい、交

ところが支える技術あってこそ。同社が開発した、高い水圧で地盤にかけた空間に固化材を充てんして地盤を強化する「ジェットグラウト工法」は世界的に定評がある。軟弱な地盤改良、地中を流れる水を止めるなどの都市土木、ダムなど山岳系と大別される分野のうち、都市土木畑の米田さんは北海道から九州まで各地の現場を歩いた。日系企業の受注した地下鉄工事に関連して4年間、台湾にいた時に役員に。その3年後の

社員約300人のうち本学OBは12人。世界で尊敬される技術に携われるのは「幸せ」と喜び、自宅の大型スクリーンで映画を見てリラックスするという。

ラグビー部70周年祝う

OB70人参加、プレー楽しむ

本学ラグビー部の創部 70周年記念行事が昨年11月3日(火・祝)に行われ、ラグビー部OB約70人が参加して、盛大に節目の年を祝った。

①懇親会で
②試合には60歳以上のOBも多く参加した



前半は0対21と40歳未満チームが圧倒し、後半、年配者が底力を見せてトライを挙げたものの5対49で試合は終了。往年のプレーを思いさせる年配者のエネルギーが注目を浴びた。

午後4時からは、記念祝賀会が津田沼校舎1号館20階で開かれた。ラグビー部OB会長・福原芳仁さん(昭和50年、精密機械工学科卒)のあいさつの後、小宮一仁学長が祝辞を贈った。乾杯は参加最年長の田島一清さん(昭和35年、工業経営学科卒)が行い、祝宴に入った。

この後、ラグビー部の現状報告、校歌斉唱などがあり、参加者は学生時代の思い出を語り合ったり話した。最後に、同部の伝統を引き継いでいくことを誓い合っており、閉会となった。

神田外語大の施設 利用可能に

本学と連携協定を結ぶ神田外語大(千葉県美浜区若葉)の施設(一部)が利用できるようになった。利用できるのは、Vメデア・プラザ(6号館1階)▽SALC/E1階▽ライオン(6号館2階)▽付属図書館(7号館1階)▽体育施設(アリーナ・グラウンド・テニスコート・ダンススクエア・更衣室・ロッカー)※サークル活動の使用は不可▽学生食堂の5施設。本学と神田外語大との連携協定を締結。昨年4月からは津田沼キャンパス・新習志野キャンパスへも利用可能に。互いの施設利用がスムーズに行えるようになったほか、協働イベントへの参加など



交流が進んでいる。写真は外国人教員と英語で話す存分コミュニケーションできるE1ライオン(神田外語大6号館)。実際に施設を利用した学生たちは「ワールドワイドな言葉に触れることで、いろんな国々の文化などを知るきっかけにもなる。他施設も積極的に利用したい」と話している。(施設の詳細や最新スケジュールは神田外語大ウェブサイトをhttp://www.kandaigo.ac.jp/kaisiを参照)

エコキャップ運動 成果

学友会主催、昨年度上回る

ペットボトルのキャップを集め、リサイクルで得た収益でポリオワクチンを購入し、病気で苦しむ子供たちに送る「エコキャップ運動」。本学も一昨年から学友会(木村孝一委員長・経営情報科学科4年)が主催して活動を始め、キャンパス内の各号館からキャップを回収したり、学内イベントで回収協力呼びかけた。その結果、今年度は昨年度を上回るキャップ3万2908個が集まった。



集まったエコキャップを洗浄する学生たち

木村委員長は「今年度は保管方法を改善したり、回収率を上げるためポスターを作ったり、と工夫を凝らしました。学生たちに身近なボランティア活動に触れてもらい、社会貢献に対する意識の向上を図ることが出来たら……」と話している。

クラブの活動状況

| 文化会 | 期間 | 大会・発表会名 |
|---------------|------------|--------------------------------------|
| 茶道部 | 11/1 | 一橋祭茶会、青山祭参加茶会、浜風祭茶会他 |
| 鉄道倶楽部 | 11/3、8、23 | ソフィア茶会・全慶應茶会・冬茶会、微音祭茶会他、駒場祭茶会他 |
| 総合工学研究会 | 11/7、8 | ひばり幼稚園バザー、ネットヨタ千葉市原八幡店出張運転 |
| 将棋倶楽部 | 11/7、15 | 早稲田大学ロボットバトル第2回大会IN 第62回理工学、ロボット操縦体験 |
| フィッシャークラブ | 11/7 | 第54回東邦祭 |
| 建築都市環境研究会 | 11/8 | 第74回学生釣魚連盟関東支部ルー・フライ大会 |
| ICC | 11/14 | 袖ヶ浦団地活性化プロジェクト |
| 東洋学術研究会 | 11/15 | 国学院Discussion2015 |
| | 11/25、29 | 津田沼駅北口クリスマスイルミネーション飾りつけ、花植えボランティア |
| 体育会 | 期間 | 大会・発表会名 |
| 空手道部 | 11/1 | 第26回関東学生空手道体重別選手権大会 |
| 少林寺拳法部 | 11/1 | 第49回少林寺拳法全日本学生大会 |
| よさこいソーラン風神部 | 10/10~11 | 東京よさこい |
| | 10/31~11/1 | DREAM夜さらい 2015 |
| 軟式庭球同好会 | 10/31~11/1 | 関東学生ソフトテニス新進大会 |
| バレーボール部 | 10/3~11 | 関東大学バレーボールリーグ |
| 射撃部 | 10/22~25 | 全日本学生ライフル射撃選手権大会 |
| | 11/5~8 | 関東学生ライフル射撃新人大会 |
| ウィンドサーフィン部 | 10/17・18 | フレッシュマンズカップ |
| 弓道部 | 10/11 | 第47回関東学生弓道選手権大会秋季リーグ中関東ブロック |
| 硬式野球部 | 9/5~11/3 | 千葉県大学野球 |
| 二輪部 | 10/31・11/1 | 秋季ツーリング |
| スキューバダイビング愛好会 | 10/11 | 常連フリッパー大会 |
| ワンダーフォーゲル部 | 10/25 | 丹沢登山 |
| 陸上競技部 | 10/31・11/1 | 合宿 |

上記クラブのほか、多くのクラブが課外活動に励んでいます。定期的ないろいろなクラブの活動状況をお知らせしています。学生たちのがんばりにご期待ください。

PPA



皆様、明けましておめでとうございます。と書いている本日は2015年12月25日。校内は人もまばらで、研究室には企業の方々や年末のご挨拶に見え、年末ムードが漂っております。

本学の4年生は必ず研究室に所属します。学生が研究室生活から学ぶ事は、大学院生は研究が主です。初釜の床の間には、青竹の花入れを掛け、長く垂らした柳のしなやかな枝を中間で結び輪にして床に流します。柳は生命力が強いため、古くから縁起の良い植物とされています。結んだ輪は、「一陽来復」の太陽を表し、「物事が好転する」という縁起の良い言葉のことです。花入れには紅白の椿が飾られ、柳の流れる形と椿の紅白のバランスがとても

四季雑感



明けましておめでとうございます。この冬は暖冬で、この暖かさは地球温暖化の影響ではなければ良いのにと感じながら、年末年始をすごしました。

さて、私は長年お茶を嗜んできましたが、新年の行事として初釜があり、この日は快適で仕事もスイスイと捗る。号館の移動もイヤイヤから自ら進んで行くほどに。暖かいというだけでどうも変わるのだ。もっと早く気付けば……という私に、同僚は「少し痩せたから今年の冬は寒く感じるのでは？」今まで着ていた「ミートテック」脱いじゃったから。うまいこと言うわあ。

生命環境科学科 小浦 節子

編集だより



こんなに暖かくて大丈夫だろうか？と、心配をうらしていた今年の冬。このまま春がくるのだろうか？と思っていた。しかし、これまでの極端な高温を相殺するかのようになり、結局は同僚のお勧めを数点購入した。その日以来、着用して

ちろん夜は私用を優先して暮らしていますが、どうやら参加率は高そうです。教える子は100円ショップでサンタやトナカイの帽子を買い、扉にはクリスマスリースが飾られています。研究も遊びも中途半端に終わらせない姿勢に、我が教える子ながら感心します。みんな楽しんで時間を共に過ごす事も、濃い研究室生活には欠かせない要素です。

建築都市環境科学科 石原 沙織